

第四表ノ一 一化性原種掃立蛾數及蟻量

郡	市	蛾數	蟻量	量	量
	市	蛾數	蟻量	量	量
合計					

第四表ノ二 二化性原種掃立蛾數及蟻量

郡	市	蛾數	蟻量	量	量
	市	蛾數	蟻量	量	量
合計					

第四表ノ三 多化性原種掃立蛾數及蟻量

郡	市	第一	第二	第三	第四
		蛾數	蛾數	蛾數	蛾數
合計		蟻量	蟻量	蟻量	蟻量
		量	量	量	量

合計					
----	--	--	--	--	--

第五表 繭樹量

郡	市	合格種繭	其他	計
	市	合格種繭	其他	計
合計				

備考 本表ハ各化性各化ニ付調製スヘシ

第六表 製絲用種枚數

郡	市	合格	不合格	計
	市	合格	不合格	計
合計				

備考 原種用ノ印アルモノニ製絲用種検査合格ノ證印ヲ與ヘタルトキハ越年種ニ在リテハ百蛾

區不越年種ニ在リテハ五十蛾區ヲ以テ一枚ニ換算シ端數ハ四捨五入シテ合格欄ニ縱線ヲ

劃シ記載スヘシ、本表ハ各化性各化ニ付調製スヘシ

第七表 原種蛾數

郡	市	無	毒	有	毒	其	他	計	無	毒	有	毒	百分比
													比例
合	計												

(備考) 百分比例ハ無毒及有毒ノ合計數ニ對スル無毒又ハ有毒ノ比例ヲ算出スヘシ

本表ハ各化性各化ニ付調製スヘシ

第八表 事務功程表

蠶病豫防 事務所位置 (郡市町村)	同上所 轄區域	同上開 日數	蠶病豫防 吏員出張 日數	蠶病豫防吏員數	經	體	給	雜	給	所	費	合	計

(備考) 蠶病豫防吏員數及經費ニ付テハ官吏ノ分ヲ除クヘシ實數ハ最多數ノ時ヲ記載スヘシ

様式第十九條ノ注意事項

- 一 一化性ニ一化以上二化性ニ二化以上多化性ニ四化以上ノモノアルトキハ相當ノ欄ヲ設ケテ之ニ記載シ或ハ別ニ調製スヘシ
- 二 同化期ノモノニ越年種ト不越年種トアルトキハ欄ニ縦線ヲ割シ記載スヘシ
- 三 收繭後ノ検査ヲ受ケサル者又ハ中途廢業シタヲ者ハ表中ニ算入ヲ要セス
- 四 合格種繭ヲ他管轄地ニ移出シ又ハ他管轄地ヨリ移入シタルトキハ別ニ一表ヲ調製シテ其ノ數量化性、化期及移出入出先ヲ記載スヘシ
- 五 合格種繭中蠶種製造ニ供用セサルモノアルトキハ表中ヨリ控除スヘシ

千葉縣令第二十三號(明治三十八年三月二十八日)

蠶病豫防法施行手續

第一條 蠶病豫防法施行規則第一條ニ依ル蠶種製造届書ハ毎年三月十五日迄ニ之ヲ知事ニ差出スヘシ

但シ掃立以前ニ於テ届出ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ直チニ其ノ旨届出ツヘシ

第二條 蠶病豫防法施行規則第二條ニ依ル届書ハ其ノ場所ヲ豫定シ得ヘキモノニ在リテハ毎年四月三十日迄ニ、之ヲ臨時ニ定ムルモノニ在リテハ其ノ都度之ヲ知事ニ差出スヘシ

第三條 蠶病豫防事務所ノ名稱、位置、管轄區域及其ノ開閉期日ハ告示ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 蠶病豫防法施行規則第十條ニ依ル蠶室蠶具消毒施行ノ期日ハ告示ヲ以テ之レヲ定ム

第五條 蠶種製造者原種ノ掃立ヲ終リタルトキハ三日以内ニ様式第一號掃立届ヲ所轄蠶病豫防事務所ニ差出スヘシ

但シ數回ニ掃立テタルトキハ其ノ都度之ヲ差出スヘシ

第六條 蠶病豫防法施行規則第十二條ニ依リ蠶種製造者蠶兒ノ部全又ハ一部ヲ讓渡サムトスル場合ニ於テ其讓受人蠶種製造者ナルトキハ双方連署シ其ノ事由ヲ具シ蠶種製造者ニ非サルトキハ讓渡人其ノ事由ヲ具シ様式第二號蠶兒讓渡許可請求書ヲ讓渡人ノ所轄蠶病豫防事務所ニ差出スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ヲシテ臨檢セシメ其事由正當ナリト認ムルトキハ讓渡人ニ許可ヲ與

フ此ノ場合ニ於テ讓受人蠶種製造者ナルトキハ其ノ蠶兒及之ニ相當スル掃殻ニ對シ様式第三號蠶兒掃殻讓渡證明書ヲ下付ス

讓受人蠶種製造者ニシテ讓渡人ト蠶病豫防事務所ノ管轄ヲ異ニスルトキハ第二項ノ手續ヲ終リタル後蠶病豫防事務所ハ其ノ旨ヲ直チニ讓受人ノ所轄蠶病豫防事務所ニ通知スヘシ

第七條 蠶種製造者蠶兒ノ上簇ヲ終リタルトキハ様式第四號上簇届書ヲ即日所轄蠶病豫防事務所ニ差出スヘシ

但シ數回ニ上簇シタルトキハ其ノ都度之ヲ差出スヘシ

第八條 蠶種製造者ハ蠶兒ノ上簇後一化性ニ在リテハ十二日以内ニ、二化性及多化性ニ在リテハ十日以内ニ繭ヲ撰別スヘシ

繭ノ撰別終リタルトキハ様式第五號收繭調書ヲ作り當該吏員臨檢ノ際之ヲ差出スヘシ

第九條 蠶病豫防法施行規則第三十八條ニ依リ種繭證明書ノ書換(下付)ヲ請求セムトスルトキハ様式第六號種繭證明書々換(下付)請求書ヲ所轄蠶病豫防事務所ニ差出スヘシ

第十條 原種製造ノ臺紙ニハ番號ヲ附シ其ノ蛾區ノ符號ハ數字ヲ用ユヘシ

母蛾ハ二十八蛾區連接ノ紙袋ニ入レ之ニ臺紙ト同一ノ番號、符號、化性名稱、及製造者ノ氏名ヲ記載スヘシ

但シ臺紙ノ番號ハ原種ノ名稱、製造者又ハ製造ノ場所ヲ異ニスル毎ニ新ニ之ヲ附スヘシ

第十一條 蠶病豫防法施行規則第廿七條第一項ニ依リ原種用ノ印(製絲用種検査合格ノ證印)ノ押

捺ヲ請求セムトスルトキハ蠶病豫防法施行規則第十六條第一號ノ検査終リ後直チニ様式第七號原種用印(製絲用種検査合格證印)押捺請求書ニ臺紙及種繭證明書ヲ添ヘ之ヲ所轄蠶病豫防事務所ニ差出スヘシ

第十二條 蠶病豫防法施行規則第十六條第二號及第三號ニ依ル不越年蠶種ノ検査ヲ請求セムトスルトキハ原種ニ在リテハ様式第八號不越年原種検査請求書ヲ、製絲用種ニ在リテハ様式第九號出殼

繭検査請求書ヲ不越年蠶種ノ製造後直チニ所轄蠶病豫防事務所ニ差出スヘシ

前項不越年原種検査請求書ニハ原種、出殼繭及母蛾ヲ添付スヘシ

第十三條 蠶病豫防法施行規則第十六條第二號ニ依ル越年蠶種ノ検査ヲ請求セムトスルトキハ遲滞ナク様式第十號越年蠶種検査請求書ヲ、同條第三號ニ依ル越年原種ノ検査ヲ請求セムトスルトキハ毎年九月三十日迄ニ様式第十一號越年原種母蛾検査請求書ヲ所轄蠶病豫防事務所ニ差出スヘシ

但シ同日以降製造ノ原種母蛾ハ其ノ都度差出スヘシ

前項越年原種母蛾検査請求書ニハ原種及母蛾ヲ添付スヘシ

第十四條 越年原種母蛾ノ検査ハ毎年九月一日ヨリ之ヲ開始ス

第十五條 蠶病豫防法施行規則第十七條但書及第十八條ノ検査ヲ行フトキハ其ノ旨ヲ蠶種製造者ニ通知ス

蠶種製造者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ検査ヲ終ル迄不越年製絲用種ヲ蠶種製造ノ場所以外ニ搬出スルコトヲ得ス

第十六條 蠶病豫防事務所ハ蠶種製造者ノ原種ヲ保管スルトキハ請求ニ依リ預證ヲ交付ス
 第十七條 蠶種製造者蠶病豫防法施行規則第十六條第三號検査終了ノ通知ヲ受ケタルトキハ蠶病豫防事務所ニ出頭シ蠶種ノ枚數及證印ノ有無ヲ取調ヘ之ヲ受領シ預證ヲ有スル場合ニハ之ヲ返納スヘシ

第十八條 蠶病豫防法施行規則様式第七號又ハ第十四號ノ證印ヲ押捺スルトキハ同時ニ様式第十二號ノ印ヲ押捺ス

第十九條 蠶病豫防法第十五條ノ取消ニ係リ又ハ蠶病豫防法施行規則第十九條若ハ第廿七條第三項ノ無効ニ屬シタル蠶種ハ官報及縣報ヲ以テ之ヲ公示ス

第二十條 蠶病豫防法施行規則第三十六條ニ依リ製絲用種検査合格ノ證印ヲ請求セムトスルトキハ様式第十三號用種變更請求書ニ蠶種ヲ添ヘ之ヲ所轄蠶病豫防事務所ニ差出スヘシ

第二十一條 蠶種製造者ヨリ知事ニ差出スヘキ書類ハ蠶病豫防事務所開設中ハ之ヲ所轄蠶病豫防事務所ニ差出スヘシ

第二十二條 蠶種製造者又ハ其ノ代理人原種掃立後蠶病豫防法施行規則第十六條第一號及第二號ノ検査終了前ニ外出セムトスルトキハ必ス相當ノ受檢代理人ヲ定メ置クヘシ

附 則

第二十三條 本令ハ明治三十八年法律第二十二號蠶病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス明治三十四年縣令第十一號蠶種検査法施行手續ハ之ヲ廢止ス

第二十四條 八月十日以後ニ於テ蠶種製造養蠶生絲製造又ハ生繭ノ賣買若クハ殺蛹乾繭ニ従事スル者ハ蠶病豫防法施行規則第二條ノ届出同第七條及第八條ノ設備ヲ爲スコトヲ要セス

様式

第一號 掃 立 届

化 性	化 期	名 稱	原種製 造者	原種製 造場所	掃 立 數	全 上 量	掃 立 日	製 造 場 所
-----	-----	-----	-----------	------------	-------------	-------------	-------------	------------------

右 及 御 届 候 也

郡町村番地

年 月 日

氏 名 印

何蠶病豫防事務所宛

(備考)

一 化性、化期、蠶種ノ名稱、製造者又ハ製造場所ノ異ナル原種ヨリ掃立テタルモノハ各別行ニ記載スヘシ

一 化性、化期、蠶種ノ名稱、製造者又ハ製造場所ノ異ナル原種ヲ數回ニ掃立ツルトキハ其ノ口カ掃立ヲ終了セル毎ニ其ノ旨ヲ付記スヘシ

第二號 蠶兒讓渡許可請求書

化性	化期	名稱	原種製造者	原種製造場所	掃立數	全上量	掃立日	蠶齡
----	----	----	-------	--------	-----	-----	-----	----

右(事由)ニ依リ(道府縣郡市町村字番地何某)ノ讓渡致度候間御許可相成度此段及請求候也

郡町村字番地

年 月 日

讓渡人 氏 名 印

道府縣郡市町村字番地

讓受人 (氏 名 印)

何蠶病豫防事務所宛

(備考) 一部ノ讓渡ニ付テハ原種掃立蛾數及同上蟻量ノ見込數ヲ記載スヘシ

但シ此場合ニ於テハ蠶兒ノ概算頭數ヲ併記スルヲ要ス

第三號 蠶兒讓渡證明書

縣郡町村字番地

氏 名

一 原種製造者及原種製造者ノ場所

一 化性、化期、名稱

一 掃立蛾數及同上蟻量(概算頭數)

一 掃立月日

一 掃 殼 (蛾 數)

一 蠶 齡

右縣郡市町村字番地何某ヨリ讓渡タルコトヲ證ス

縣蠶病豫防吏員官

氏 名 印

第四號 上 簇 届 書

化性	化期	名稱	原種製造者	原種製造場所	種繭定月日	蠶種製造場所
----	----	----	-------	--------	-------	--------

右本日上簇致候間此段及御届候也

郡町村番地

氏 名 印

年 月 日

何蠶病豫防事務所宛

第五號 收 繭 調 書

調査事項	化性名稱	掃立蛾數
------	------	------

蠶病豫防法施行手續

掃立蟻量	收購總樹量	蛾量一匁ニ付收購樹量	種繭樹量	製絲用繭樹量	同功繭樹量	繭層片薄薄皮不正繭樹量	原種製造豫算蛾數	製絲用種豫算枚數	同上ニ付產卵豫定蛾數	發蛾豫定月日

右ノ通相違無之候也

年月日

郡町村字番地

氏名印

第六號

何蠶病豫防事務所宛

種繭證明書書換(下付)請求書

化性化期名稱	原種製造者	原種製造場所	種繭量	讓渡種繭量	上月日	製造場所

右授受致候間種繭證明書書換(下付)相成度此段及請求候也

郡町村字番地

讓渡人 氏名印

道府縣市町村字番地

道府縣何蠶病豫防事務所所轄

讓受人 氏名印

第七號

何蠶病豫防事務所宛

原種用印(製絲用種檢查合格證印)請求書

化性化期名稱	原種製造者	原種製造場所	種繭量	臺紙數	產卵豫定月日	臺紙一枚ニ產卵セシムヘキ蛾數

右及請求候也

蠶病豫防法施行手續

年 月 日

郡町村字番地 氏

名 印

第八號

不越年原種検査請求書

化性	化期	名稱	原種製造者	原種製造場所	種繭量	原種蛾數	全種蛾數	上全蛾數	出殼繭量

右原種、出殼繭及母蛾相添へ及請求候也

年 月 日

郡町村字番地 氏

名 印

第九號

不越年製絲用種出殼繭検査請求書

化性	化期	名稱	原種製造者	原種製造場所	種繭量	原種蛾數	製造枚數	出殼繭量

右及請求候也

郡町村字番地

年 月 日

氏 名 印

何蠶病豫防事務所宛

(備考) 蠶種製造ニ供用セサリシ臺紙アルトキハ其數ヲ附記スヘシ

第十號

越年蠶種検査請求書

化性	化期	名稱	原種製造者	原種製造場所	種繭量	製絲用種枚數	原種蛾數	全種蛾數	上全蛾數	製造場所

右及請求候也

郡町村字番地

年 月 日

氏 名 印

何蠶病豫防事務所宛

第十一號

越年原種検査請求書

化性	化期	名稱	原種製造者	原種製造場所	種繭量	原種蛾數	全種蛾數	上全蛾數	製造場所

右卵母蛾相添へ及請求候也

郡町村字番地

年 月 日

何蠶病豫防事務所宛

第十二號

道府縣蠶
病豫防吏
員氏名印

四十二

氏 名 印

第十三號

用種變更請求書

化性	化期	名稱	原種製造者	原種製造場所	原種枚數	種蛾數	原種變異用種枚數	種變異蛾數

右及請求候也

年 月 日

何蠶病豫防事務所宛

千葉縣告示第五十四號

蠶種製造者蠶室蠶具消毒施行ノ期日左ノ通定ム

明治三十八年四月七日

千葉縣知事

石 原 健 三

郡町村字番地

氏 名 印

- 一 化性、二化性一化、多化性一化、
- 二 化性二化、多化性二化以上、風穴種、

每年四月十五日迄
每期掃立三日前迄

農商務省訓令第五號(明治三十八年四月一日)

蠶病豫防事務所取扱規程

- 第一條 蠶病豫防事務所ニハ蠶種製造者、生絲製造者又ハ生繭ノ賣買若ハ殺蛹乾繭ニ從事スル者ノ臺帳ヲ備ヘ置クヘシ
- 前項臺帳ハ蠶種製造者ニ付テハ様式第一號ニ準シ其ノ他ノ者ニ付テハ様式第二號ニ準シ之ヲ作ルヘシ
- 第二條 蠶病豫防法施行規則第一條但書ノ場合ニ於テ蠶種検査手續ノ一部カ他ノ地方長官ノ管轄蠶病豫防事務所ニ稚移シタルトキハ蠶病豫防事務所ハ其ノ検査ノ成績ヲ稚移シタル蠶病豫防事務所ニ遲滞ナク通知スヘシ
- 第三條 蠶病豫防吏員ハ蠶種製造者カ蠶室蠶具ノ消毒ヲ施行スル場合ニ於テ一回、掃立後及上簇前ニ於テ各一回以上之カ臨檢ヲ爲スヘシ
- 蠶病豫防吏員ハ蠶蛆ノ繭ヲ破出スル期節ニ於テ蠶種製造者、養蠶者、生絲製造者又ハ生繭ノ賣買若ハ殺蛹乾繭ニ從事スル者ノ生繭ノ集散又ハ保存スル場所ヲ隨時臨檢スヘシ
- 蠶病豫防吏員必要ト認ムルトキハ養蠶者カ蠶兒ヲ飼育スル場所ヲ臨檢スヘシ
- 第四條 蠶病豫防吏員カ蠶病豫防法施行規則第七條第三項ニ依リ床下掃除ヲ命シタル場合ニ於テハ塵埃ヲ清掃シ床土ヲ三寸ノ深サニ掘起シ其ノ塵埃及床土ハ之ヲ燒棄セシムヘシ

但シ床土ニ蠶蛆及其ノ蛹ノ潜伏ノ虞ナシト認ムルトキハ床土ヲ掘起シ之ヲ燒棄セシムルヲ要セス

前項ノ床下掃除ハ當業者業務ノ繁忙ナラサル期節ニ於テ爲サシムヘシ

第五條 蠶病豫防吏員カ蠶病豫防法施行規則第十條第三項ニ依リ蠶病消毒濟證ヲ下付セムトスルニハ其ノ消毒用器具、藥品及其ノ消毒方法カ蠶病豫防心得第六條ニ適合スルヤ否ヤヲ檢スヘシ其ノ適合セサル場合ニハ更ニ之ヲ行フコトヲ命スヘシ

第六條 蠶病豫防吏員カ蠶病豫防法施行規則第十六條第一號ノ檢査ヲ行フ場合ニハ蠶病豫防法第五條第六條及蠶病豫防法施行規則第二十一條ニ違背セサルヤ否ヤ竝收繭調査書ヲ檢シ適當ト認ムルモノニ對シ蠶病豫防法施行規則第二十六條ノ種繭證明書ヲ下付シ且蠶病豫防事務所備付ノ臺帳ニ之カ記載ヲ爲スヘシ

蠶種製造豫定額ヲ檢スルニハ三升ノ種繭ニ就テ調査シ平均一升ノ顆數ヲ定メ之ヲ種繭ノ總升量ニ乘シテ種繭ノ總顆數トナシ次ニ種繭ノ内若干顆ヲ切開シテ其ノ發蛾歩台ヲ檢シ之ヲ種繭總顆數ニ乘シ其ノ半數ヲ以テ産卵シ得ヘキ蛾數ノ標準トナスヘシ

第七條 蠶病豫防吏員カ蠶病豫防法施行規則第二十七條ニ依リ原種用ノ印又ハ製絲用種檢査合格ノ證印ヲ押捺スル場合ニ於テハ臺紙ノ數、種繭證明書及收繭調査書ヲ對照シ原種ニ在リテハ蠶病豫防法施行規則第十四條第一項及同第十五條ニ違背セサルヤ否ヤヲ檢シ製絲用種ニ在リテハ蠶病豫防施行規則第十四條第一項ニ違背セサルヤ否ヤヲ檢スヘシ

第八條 蠶病豫防吏員カ蠶病豫防法施行規則第十六條第二號又ハ第三號ニ依ル不越年蠶種ノ檢査ヲ行フ場合ニ於テハ原種ニ在リテハ卵、出壳繭、種繭證明書及收繭調査書ヲ對照シ製絲用種ニ在リテハ出壳繭、種繭證明書及收繭調査書ヲ對照シ適當ト認ムル原種ニ付テハ更ニ第十四條ノ方法ニ依リ母蛾檢査ヲ行フヘシ

前項ノ檢査ヲ終リタルトキハ原種ニ在リテハ蠶病豫防法施行規則第三十四條ノ處理ヲ製絲用種ニ在リテハ同第二十八條ノ處理ヲナスヘシ

前項ノ場合ニ於テ蠶病豫防吏員カ蠶種製造上不良ノ行爲アルカ又ハ病毒存在ノ疑アリト認ムル時ハ檢査ヲ中止シ蠶病豫防法第十六條ニ依リ必要ナル處分ヲ爲シ直チニ其ノ理由ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第九條 前條第三項ノ場合ニ於テ地方長官卵ノ檢査ヲ必要ナリト認ムルトキハ蠶病豫防吏員ニ蠶病豫防法規則第十八條第二項ノ檢査ヲ行フコトヲ命スヘシ

前項檢査ヲ行ヒタル場合ニ於テハ直チニ其ノ檢査成績ヲ報告セシムヘシ

第十條 蠶病豫防吏員カ蠶病豫防法施行規則第十六條第二號ニ依リ越年蠶種ノ檢査ヲ行フ場合ニ於テハ卵、出壳繭、種繭證明書及收繭調査書ヲ對照シ適當ナリト認ムル種繭ハ原種ニ在リテハ原種用ノ印ヲ、製絲用種ニ在リテハ製絲用種檢査合格ノ證印ヲ押捺スヘシ

越年蠶種ノ檢査ヲ終リタルトキハ蠶病豫防法施行規則第三十條又ハ第三十一條ノ處理ヲ爲スヘシ
第一項ノ場合ニ於テハ製絲用種中病毒存在ノ疑アリト認ムル場合ニハ第八條第三項ニ準スヘシ

住所	種業	名氏	生繭取	開	閉	豫	定	月	日	
			扱場所	開	閉	所	月	日	閉	所
			生繭取扱豫定數量(合)							

農商務省告示第七十五號(明治二十八年四月一日)

蠶病豫防心得

第一條 蠶病豫防法施行規則第四條ニ依リ蠶蛆又ハ其ノ蛹ヲ壓殺熱殺又ハ水殺スル方法左ノ如シ

- 一 壓殺ハ形體ヲ破壊スルニ至ルヲ以テ度トスヘシ
- 二 熱殺ハ左記方法ノ一ヲ選ムヘシ
 - 一、熱湯中ニ投入シ又ハ熱湯ヲ注加スルコト
 - 二、蒸氣ニ接觸セシムルコト
 - 三、華氏百六十度以上ノ火熱若クハ蒸氣熱ニ接觸セシメ又ハ燒棄スルコト
- 三 水殺ハ水ヲ盛リタル容器中ニ投入シ蠶蛆ハ六十時間以上其ノ蛹ハ百四十四時間以上之ヲ放置スヘシ

第二條 蠶病豫防法施行規則第五條ノ病蠶斃蠶斃蛆又ハ裸蛹ノ滅殺方法及死籠繭又ハ薄皮繭ノ乾燥方法左ノ如シ

- 一 「フオルマリン」ヲ用キル場合ニ在リテハ其ノ稀釋液(百分中蟻酸「アルデヒド」一分ヲ含有スルモノ)ヲ投入シ十二時間以上之ヲ放置スヘシ
- 二 石灰水ヲ用キル場合ニ在リテハ生石灰(少量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ發シテ崩壞スルモノ)一分又ハ生石灰末(生石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ)一分ニ九分以内ノ水ヲ加ヘタル

モノニ投入シ二十四時間以上之ヲ放置スヘシ

三 死籠籠又ハ薄皮繭ノ乾燥ハ火熱又ハ蒸氣熱ヲ用ヒ生繭量百匁ヲ四十匁以内ニ至ラシムヘシ

第三條 蠶病豫防法施行規則第六條ノ蠶病ノ蔓延トハ病勢猖獗ニシテ一時ニ蠶兒ノ過半斃死シタル場合ヲ謂フ此ノ場合ニ於テ蠶室蠶具ニ「フオルマリン」ヲ撒布スル方法ハ第六條第一號ニ準スヘシ

第四條 蠶病豫防法施行規則第七條第一項但書ノ蠶蛆及其ノ蛹ノ散逸ヲ防クニ足ルヘキ構造ノ室トハ蠶蛆ノ逸出シ罅隙ナキモノヲ謂フ

蠶蛆及其ノ蛹ノ散逸ヲ防クニ足ルヘキ容器トハ箱又ハ籠等ニシテ高サ二寸以上ノ縁ヲ有シ蠶蛆ノ逸出シ又ハ墜落スルノ虞ナキモノヲ謂フ

第五條 蠶病豫防法施行規則第九條ニ依ル蛾ノ乾燥ハ華氏百六十度以上ノ火熱又ハ蒸氣熱ニ三時間以上之ヲ接觸セシムヘシ

第六條 蠶病豫防法施行規則第十條ニ依ル蠶室蠶具ノ消毒法左ノ如シ

一 「フオルマリン」ヲ以テ蠶室蠶具ヲ消毒スルニハ噴霧器ヲ用ユヘシ

一 蠶室ヲ消毒スルニハ室内ヲ清潔ニ掃除シ瓦期ノ漏洩ヲ防ク爲其ノ周圍ヲ密閉スヘシ此ノ場合ニ於テ氣温低キトキハ火熱ヲ以テ華氏七十度以上ニ昇ラシムヘシ
蠶室ノ内面百平方尺ニ對シ「フオルマリン」稀釋液（百分中蟻酸「アルデヒド」一分ヲ含有スルモノ）四百二十匁（二合三勺一才）ヲ撒布スヘシ

但シ充分ニ密閉シ難キ室ニ於テハ「フオルマリン」撒布ノ量ヲ二倍迄増量スヘシ

「フオルマリン」撒布スルニハ天井ヨリ欄間、四壁ニ及ボシ最後床板ニ至リ撒布後尙五時間以上之ヲ密閉スルヲ要ス

二 蠶具ヲ消毒スルニハ氣温華氏七十度以上ノ温室、土藏又ハ蠶室内ニ於テ之ヲ行フヘシ

「フオルマリン」稀釋液（百分中蟻酸「アルデヒド」一分ヲ含有スルモノ）ヲ蠶具ニ撒布スルニハ蠶網、蠶籠、及蠶箔ノ類ニ在リテハ一枚毎ニ、蠶架ノ類ニ在リテハ一本毎ニ之ヲ撒布シ交互若ハ筒々ニ順次堆積シテ相當ノ高サニ至ラハ瓦斯ノ漏洩ヲ防ク爲菘菘等ヲ以テ周圍ヲ覆ヒ十五時間以上之ヲ放置スヘシ

二 蟻酸「アルデヒド」瓦期ヲ以テ蠶室及蠶具ヲ消毒スルニハ「フオルマリン」蒸發器又ハ其他ノ消毒器ヲ用ユヘシ

一 蠶室ヲ消毒スルニハ瓦期ノ漏洩ヲ防ク爲室内ノ間隙及障子ハ紙ヲ以テ三重張トシ氣温低キトキハ火熱ヲ以テ華氏七十度以上ニ昇ラシムベシ

蠶室内面千立方尺ニ對シ蟻酸「アルデヒド」瓦期六十瓦ヲ發散セシムベシ
蟻酸「アルデヒド」瓦期ヲ發散セシムル爲「フオルマリン」ノ蒸發ヲ行フニハ「フオルマリン」百分中蟻酸「アルデヒド」三十五分ヲ含有スルモノ（百六十匁（八勺八才）ニ二倍ノ水ヲ加ヘ火上ニ消毒器ヲ架シテ之ヲ沸騰シ悉ク蒸發セシメタル後尙ホ六時間以上其ノ蠶室ヲ密閉スベシ

二 蠶具ノ消毒ハ第二號ノ一ノ設備ヲ有スル温室、土藏、厚キ紙帳又ハ蠶室内ニ於テ之ヲ行フ

ベシ
蠶具ヲ記置スルニハ棚ヲ設ケ蠶箔ノ上ニ蠶筵ノ厚キモノハ二枚以下薄キモノハ四枚以下ヲ
堆積スヘシ

消毒室ノ内面千立方尺ニ對シ蟻酸「アルデヒド」瓦期ヲ左ノ割合ニ依リ發散セシメ發散
後尙ホ六時間以上之ヲ密閉スベシ

蠶箔及蠶筵(皆川筵) 蟻酸「アルデヒド」瓦期量

- 百枚以下 一一五瓦
- 二百枚以下 一三〇
- 三百枚以下 一四五
- 四百枚以下 一六〇
- 五百枚以下 一八〇
- 六百枚以下 一九〇
- 七百枚以下 二〇〇
- 八百枚以下 二二〇

蠶筵ヲ堆積スルノ程度ハ皆川筵四枚ヲ以テ限度トスヘシ

但シ厚筵一枚又ハ蠶網五枚ノ厚ハ皆川筵二枚ノ厚ニ相當ス

三 蒸氣ヲ以テ蠶具ヲ消毒スルニハ桶、箱等ニ蠶具ヲ容レ之ニ蒸氣ヲ通シ華氏二百十二度ニ達

シタル後尙ホ三十分間以上同温度ヲ保タシムヘシ

○勅令第三十八號(明治三十八年二月二十日)

第一條 蠶病豫防法ニ依リ蠶種ノ檢査ヲ施行スル道廳府縣ハ蠶種檢査請求者ヨリ左ノ區別ニ從ヒ手
數料徵料スルコトヲ得

一原 種

一蛾區ニ付 二厘以内

一製絲用種

一枚ニ付 三錢以内

第二條 前條ニ依リ徵收シタル手數料ハ府縣ノ收入トス

但シ北海道廳ニ於テハ北海道廳地方費、沖繩縣ニ於テハ國庫ノ收入トス

附 則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法律第五十二號

第一條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅及葉煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

但シ其ノ罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ參百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三條 法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其報行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ効力アルモノトス
前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

明治三十三年三月十二日

內閣總理大臣 侯爵 山縣 有朋
大藏大臣 伯爵 松方 正義

13/11/40

明治三十八年八月二十日印刷
明治三十八年八月廿五日發行

千葉縣

印刷人

勝島敬三郎

千葉縣千葉郡千葉町千葉千四百十番地

印刷所

寶山堂印刷所

千葉縣千葉郡千葉町千葉千四百四番地



142
84

終